

国際価値論研究会(仮称) 第1回例会

# 新しい国際価値論の学説史上 の位置づけ

塩沢由典

# 目次

---

1. リカード問題とその「最終解決」
2. ミル「解決」の絶大な影響
  - ミルの「解決」が新古典派理論を必然とした。
  - 古典派価値論と新古典派価値論の分岐点
  - 新古典派革命の再検討
3. 21世紀経済学への示唆

# 1. リカード問題とその「最終解決」

---

- リカード&マルクスの国際価値問題が古典派の伝統の上に構成できた。

# 国際経済学と経済学説史

## ● 経済理論

- 国内経済[一国経済] (ミクロとマクロ、非主流諸派)
- 国際経済 ◆ 貿易論(ミクロ) ◆ 国際金融論(マクロ)

## ● 経済学史

- 経済理論・経済思想の歴史的発展の研究

## ● 根岸隆 2011.7.8(私信)

- 我国では国際経済学者は経済学説史に関心がうすく、経済学説史家は国際経済学にうといという傾向がありました...

# 経済理論についての貿易理論

## ● 貿易理論と経済理論

- 貿易理論は、地代論にも匹敵する(より?)重要問題

## ● リカード貿易問題(Ricardo-Marx Problem)

- Ricardo: 1国におけると同じ法則が2国以上の間の商品の交換価値を規定するわけではない。
- Marx: 国際的適用においては、価値法則は根本的に修正される。

## ● にもかかわらず、解けなかった。

# J.S. ミルによる「解決」

---

- J.S. ミル(1844; 1848)

- ミルの問題 交易条件が不確定

- ミルの解決 相互需要論

- ◆ どちらもJ.S.ミル自身の使った用語ではない。

- J.S. ミルの影響は現在に続いている。

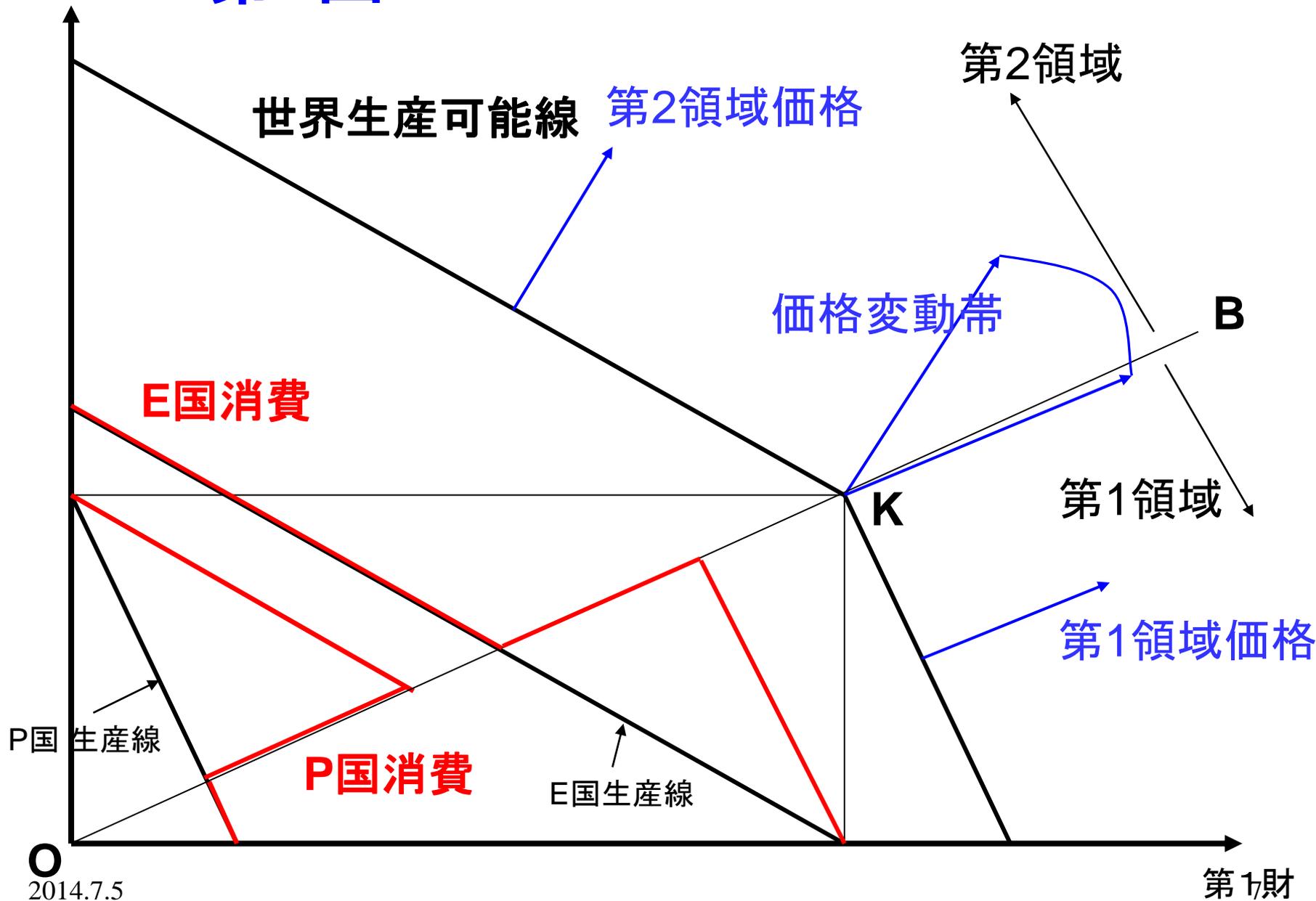
- 2国2財

- 端点を研究する。

- じつはもっと大きな影響がある。 § 2.

# 第1図

第2財



# 双方に貿易の利益が存在する条件

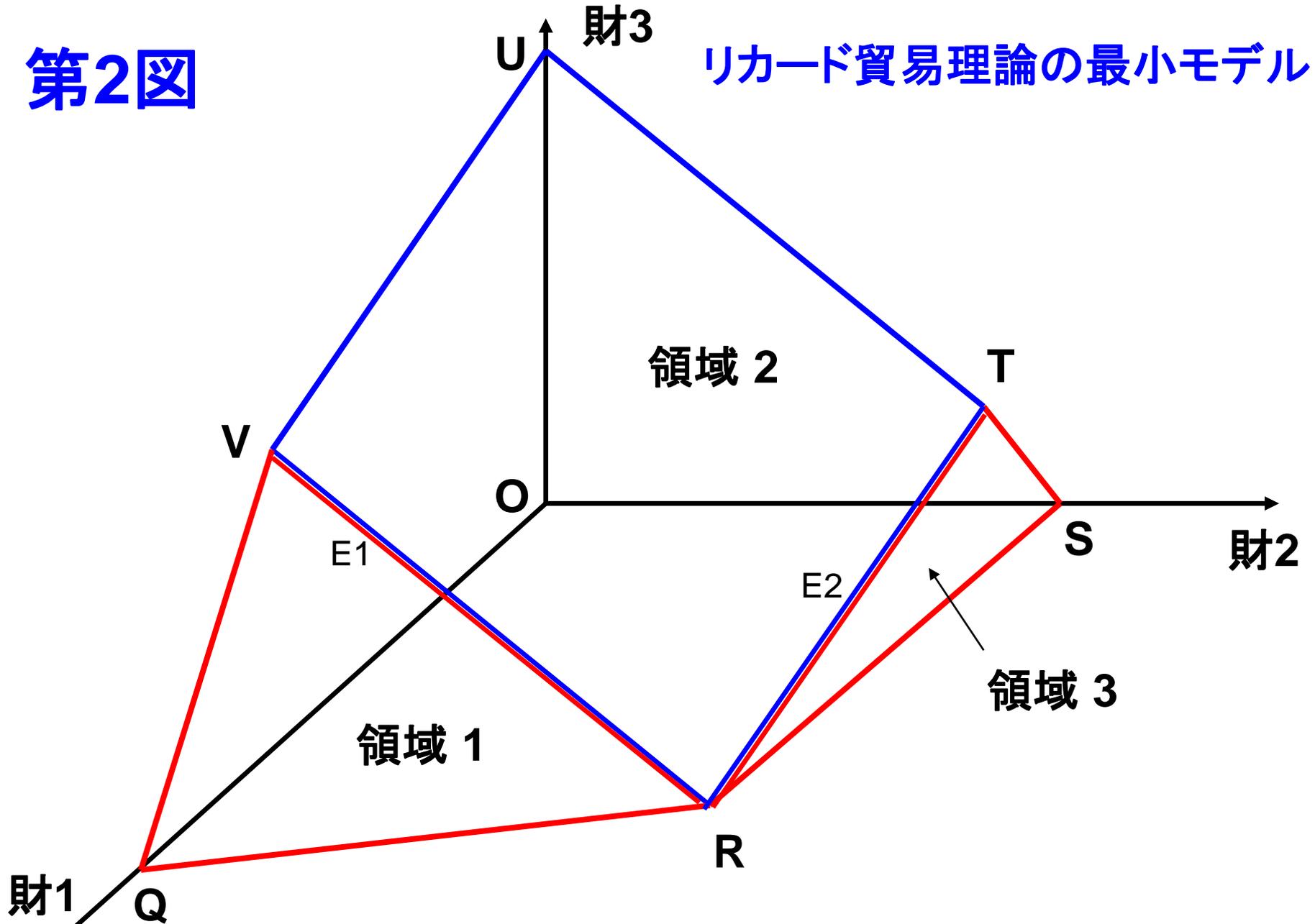
- 伝統的リカードモデル(現在に続く伝統)
  - 2国2財が最小モデルと考えられてきた。
  - 2国2財で双方に貿易の利益が存在
    - 第1図のK点(完全特化点、端点)に限定される。
- 「大国の場合」という解釈
- 端点(0次元面)を考える問題点
  - 両国の労働力量が与えられれば生産量確定
  - 生産は入っていても、**純粹交換経済**

# リカード貿易理論の最小モデル

- 2国2財では現れない状況
- 2国3財の場合(最小モデル→第2図)
  - 完全特化点(MJ点)は存在しない。
  - 一般に $M$ 国 $N$ 財( $M < N$ )ではMJ点は存在しない。
- 正則領域(ファセット、 $N-1$ 次元面)では
  - 平行四辺形RTUVでは、A国・B国ともに貿易の利益があり、かつその範囲で(相対)価格と(相対)賃金率が確定し、かつ一定の値をとる。

# 第2図

## リカード貿易理論の最小モデル



2014.7.5

2国3財のR経済、RS経済は岡報告を参照。

# 新しい国際価値論の概略(1)

## ● 正則な国際価値

- ↑ 正則領域において確定する国際価値
- 国際価値(各国の賃金率+財価格)

$$\mathbf{v} = (w_1, w_2, \dots, w_M; p_1, p_2, \dots, p_N)$$

## ● 前提:

- 価格理論 各国各産業に一定の上乗せ率を仮定
- 各国各財ごとに(複数の)線形の技術がある。
- 各国の労働力量が所与

# 新しい国際価値論の概略(2)

## ●モデル特性:

- 多数国
- 多数財
- 中間財貿易
- 技術選択

## ●含意:

- 資本財の自由な貿易(要素貿易理論は不必要)
- 貿易はなぜ起こるか(技術の国ごとの違い)
- 気候・地下資源等は、**地代論**の問題。

## ●拡張:

- 輸送費
- 純粋な中間財
- 特化パターン
- 連結財

# おもな帰結

- **基本定理(略式)** 世界需要が正則領域にあるならば、正則価値は定数倍を除いて一義的に定まる。(第3章定理17、第5章定理44)
  - 正則領域では需要が変化しても国際価値は一定
  - 正則な(極大)需要は競争的な技術以外の技術を用いる生産では実現できない。(第3章系20)
  - 世界需要が正則錐の**内部**にあるとき、正則価値によって競争的な生産では完全雇用は実現できない。(第3章系21)

# 国内価値論との関係

## ●古典派国内価値論

- 生産費説ではあるが、労働価値説ではない。
- フルコスト原理の採用が国際価値論成立の要件
- Oxford経済調査、P.Sraffa 1960(後出)
- 国際価値論→「各国の賃金率がどう決まるか」
  - ◆これが決まれば、国内価値論と同一の議論ができる。

## ●古典派価値論の現代的展開

- 藤本隆宏 現場派経営学、全部直接原価計算
- 『経済学を再建する』提案編第3章・第4章

## 2. ミル「解決」の絶大な影響

---

- J.S.ミルの研究が経済学の流れを決めた。

# 経済学の流れ(学説史の基本問題)

- 古典派経済学 → 新古典派経済学(単系説)
- 競合的パラダイムが並存(双系説)(松嶋、塩沢)
  - スミス → リカード → Oxford調査/スラッフア → 現在  
(スミス) → 反リカード → ジェボンズ, ワルラス → 現在
- 本当の対立はなにか
  - 経済像・政策の対立ではなく、価値論(価格理論)
- わたしの仮説(私だけではないが)
  - J.S.ミル: 新古典派価値論への転換点(転換の現場)
  - 需要供給論の大勢に巻き込まれた。

# 経済学における二大価値論(参考)

## ●古典派価値論の歴史

- Ricardoが典型(利潤を含む)、Marx, Sraffa, ...
- A. Smithには混在、リカード反動(M. Dobb)
- Ricardoは「需要供給の理論」を俗説として否定
- 生産費(リカード>スラッファ>藤本隆宏/塩沢由典)

## ●新古典派価値論

- リカード反動、J.S.ミル、限界革命(1870年代)
- 概念: 需要側の発見、方法: 限界分析
- J.R.ヒックス 新古典派の特徴はcatallactics

# 古典派価値論

---

## ●生産の経済学(plutology)

- なぜ生産の経済学なのか(vs. 交換の経済学)

## ●リカードはなにと戦っていたのか

- 需要供給の法則(常識) vs. 生産費説

## ●生産費説

- 深貝保則(1988)「価値理論におけるリカードウとJ.S.ミル」
- リカードからP. Sraffaへ(リカード修正問題 I)

# Ricardoと需要供給の法則

- common principles of supply and demand 同2.4
- demand and supply 5段落 supply and demand 9段落
- It is the **cost of production** which must ultimately regulate the price of commodities, and not, as has been often said, the **proportion between the supply and demand**: the proportion between supply and demand may, indeed, for a time, affect the market value of a commodity, until **it is supplied in greater or less abundance, according as the demand may have increased or diminished**; but this effect will be only of temporary duration. Ricardo(1821) 30.1
- 最後の主張は、上乗せ価格の考え方とも整合

# J.S. Mill と需要供給の法則(1)

- d.&s. 33段落 s.&d. 12段落
- the theory of d.&s. p.15 ● a ratio of III.2.10, 2.14
  - equation of III.2.14 ● law of III.3.7, III.9.11, III.16.5
  - principles of III.18.12
- 動詞 depend, govern, regulate, equalized, be equal
- cost of production 131段落
- The **cost of production**, together with the **ordinary profit**, may therefore be called the **necessary price**, or **value**, of all things made by labour and capital. III.3.1
- Adam Smith and Ricardo have called that value of a thing which is proportional to its **cost of production**, its Natural Value (or its Natural Price). III.3.3

# J.S. Mill と需要供給の法則(2)

---

- **d.&s.** only determine the perturbations of value, during a period which cannot exceed the length of time necessary for altering the supply. III.3.8
- Does **Rent** enter into Cost of Production? and the answer of the best political economists is in the negative. III.4.21
- (結合生産の場合) Since **cost of production** here fails us, we must revert to a **law of value anterior** to cost of production, and **more fundamental**, the **law of demand and supply**. III.16.5

# J.S. Mill と需要供給の法則(3)

## ● III.17 国際貿易 III.18 国際価値

- Does the law, that permanent value is proportioned to **cost of production**, hold good ...? III.17.1
- But the value of a commodity brought from ... a foreign country, does not depend on its **cost of production** in the place from whence it comes III.18.1
- the law of **cost of production** is not applicable. We must accordingly, as we have done before in a similar embarrassment, fall back upon an antecedent **law**, that **of supply and demand**: and in this we shall again find the solution of our difficulty. III.18.4

# 新古典派価値論

- 交換の経済学(catallactics)

- 需要供給理論

- この考えは、A. Smithの時代、Ricardoの時代、J.S. Millの時代にもあった。

- 3人は「常識」にそれぞれ対抗したが、Millは重要な例外を認めざるを得なかった。→ 国際貿易

- なぜ、交換経済が中核なのか

- 純粹交換経済が新古典派の核心!?

# なぜ新古典派革命がおこったか

- (普通の説明) 需要の役割に目覚めた?
  - リカード反動?
  - 需要供給を対称的に扱うのではなく、**価格設定と数量調節**という方向への発展もありえた。
- 古典派から新古典派へ
  - J.R. Hicks 「生産の学」Plutologyから「交換の学」Catallacticsへ
  - 経済史の流れからいえば逆?(商人資本→産業資本)
- J.S. Millの「解決」が起源では?

# 学説史上のJ.S. ミル

- そこ(転換点・分岐点)にJ.S.ミルがいた。
- 学説史上のJ.S.ミル
  - 思想史・方法論に比べ経済学の分析が少ない?
  - 例外: Negishi、羽鳥卓也、諸泉俊介、深貝保則
- J.S. Mill体系
  - 通説的解説
    - ◆人口法則 ■ 農業の収穫逓減 ■ 賃金基金
  - これが古典派体系か? (古典派価値論の再定義)

# リカード貿易問題:J.S. ミルの「解決」

## ● J.S. ミルはどう取り組んだか

- 2国2財、端点を考えた。(第1図 K点)
- → 交易条件が**未確定**
- **解決** → 需要条件が交易条件(交換価格)を決める。

## ● ミルが追い込まれた立場

- 国際価値: 生産費で説明できない重要状況
- 交換経済 → 交換の経済学

## ● 現在の貿易理論家たちも気づいていない。

- 端点を求めて価格を決定しようとしている。(バラダイム)

# 「解決」の論理的帰結(J.S.ミルの価値論)

## ●生産費説か需要供給説か

## ●ミルの立場(自己了解)

- リカードに忠実であろうとした。
- 基本は生産費説、しかし生産費で説明できないことがある。例:作者の死んだ芸術作品、連産品
  - ◆ここまではリカードと同じ。
- しかし、ひじょうに重要なところで生産費説を貫けなかった。←国際価値論

## ●より一般的な需要供給説へ

# なぜ新古典派革命がおこったか(再説)

## ●古典派価値論の「欠けた環」

- 国際価値論

- リカード、マルクス→問題の所在を確認

## ●若きJ.S.ミルの奮闘

- 気づくことなく、「交換の経済学」に追い込まれた。

- 重要領域で、生産費説を引き下げざるを得なかった。

## ●Jevonsらの限界革命へ

# 新しい目で見直すと

## ● Marshall、Edgeworth

- 貿易理論のために分析用具を開発

## ● Jevons

- *Theory of PE.* 第4章交換の理論 “trading body”
- 同 第5章 労働の理論=「生産の理論」?
- 第2版(1879)序文

that **able but wrong-headed** man, David Ricardo, shunted the car of Economic science on to a wrong line, a line, however, on which it was further urged towards confusion by his equally **able and wrong-headed** admirer, John Stuart Mill.

- Coal Problem (1865; 66)

To the writings of Ricardo, and especially of John Stuart Mill, we are indebted for the discovery and distinct explanation of these principles.

- MarshallのJevons解釈 (Appendix I. Ricaro's Theory of Value)、半分以上がJevonsのRicardo批判への注解

# 新古典派革命を用意したもの？

## ● Jevons *Theory* 第2版序文(1879)

- 数理経済学の文献リスト作成、分類
- Gossen発見、Cournotの再評価
- 第2群 数学を使った無意味Nonsense  
Canard(18018503), Whewell (1829, 1831, 1850)
- 第4群 数学を使って本質を解明した  
Condillac, Dupuit, Cournot, Gossen, Walras, ...

## ● 第4群も「学者の自然発生哲学」？

アマチュア経済学者の哲学？ (L. Althusser)

需要供給論という「常識」による繰り返される「発見」

# 3. 21世紀経済学への示唆

---

- これからやれること、やるべきこと

# 貿易論・国際経済学

- 加工貿易からフラグメンテーションまで
  - いま、話題の領域に切り込む。
- 企業レベルの考察
  - 新新貿易理論(Melitzら) ■ 企業ごとに1生産技術
- 賃金率格差
  - 利用する(雁行形態→中進国論) ■ (低)開発論
- 貿易政策の新思考
  - 自由化と失業 ■ 為替切下げによる景気回復(竹森俊平)
  - 貿易理論とケインズの結合(田淵太一)

# ケインズの構想と古典派価値論

- 古典派価値論の上にケインズの構想を
- 『一般理論』に関する反省
  - 新古典派と古典派とを区別しなかった。
  - マーシャル体系の上に理論構築を試みた。
  - 反ケインズ革命(1970年代以降)を招いた。
  - 利子率中心のマクロ経済学でよいか。(塩沢2013)
- 有効需要 理論と政策
  - 総需要(Keynes)だけでなく需要構成(Ricardo)も
  - リカードとケインズが手を結ぶ。

# 古典派価値論のRedomaining

- 古典派経済学と古典派価値論
  - 経済像と経済理論と経済政策を区別
- 古典経済学の経済像？
  - 生存賃金(賃金基金)説、耐忍説、セイ法則
  - 労働価値説、人口法則
- 古典派価値論(ここから組みなおす)
  - 正常価格(価値論)、生産費説、フルコスト原理
  - 数量調節、なぜフルコスト原理か

# わたしの考える古典派価値論

- 現代理論(異論がありうる、以下は塩沢説)
- 価格理論
  - Sraffa(1960) + オクスフォード経済調査(1952)
  - 市場の競争状態 → 上乗せ率 → 価格と実質賃金
  - 国際価値(賃金率+財・サービスの価格)
- 価格と数量の二重調節過程
  - Sraffaの原理(1926)、企業レベルの**有効需要**
  - 価格変動のメカニズム(数量調節と需要変動)

# 古典派価値論と需要の理論

---

## ● 需要の理論

- いちばん未発達な領域
- 需要飽和(吉川・黒瀬)

## ● 新しい主題: 価格一定での需要変動

- マーケティング理論
- コンビニなどの予測

## ● 利潤理論のためにも

- 製品寿命(設計>生産終結まで)内の総需要

# 金融経済と実体経済の総合理論

---

- 金融経済が実体経済を動かしている。
  - 尻尾が犬を振り回している。(J. Mead?)
- 適切な金融経済理論が存在するか
  - Minsky?
  - Wicksell connection?
  - 内生的貨幣理論(circulationists) + ?
- この研究会でやれるかどうか

# 文献(一部を抜粋)

- 塩沢由典(2013)「アベノミクスとケインズ経済学」ケインズ学会シンポ報告。
- 塩沢・有賀(2014)『経済学を再建する』中央大学出版部。
- 平野嘉孝(1994)正常価格体系と稼働率、経済論叢154(4): 42-62.
- 深貝保則(1988)価値論におけるリカードウとJ.S.ミルとの継承関係、米田康彦他『労働価値とはなんであったのか』創風社。
- 福田進治(2011)森嶋通夫のリカード解釈をめぐる論争、人文社会論叢. 社会科学篇(弘前大学) 26:55-71.
- 藤田敬司(2007)「オーストリア学派の主観価値説からみた公正価値会計の光と蔭」『立命館ビジネスジャーナル』1:1-25.
- ホルンダー(1991)『古典派経済学』多賀出版、序章。
- 松嶋敦茂(1996)『現代経済学史 1870-1970』名古屋大学出版会。
- Hollander(1979) Economics and Ideology: Aspects of the Post-Ricardian Literature, Literature of Liberty 2(3).